

2024. 8. 8

TOYOBO
Beyond Horizons

2024年度 第1四半期 決算説明

東洋紡株式会社

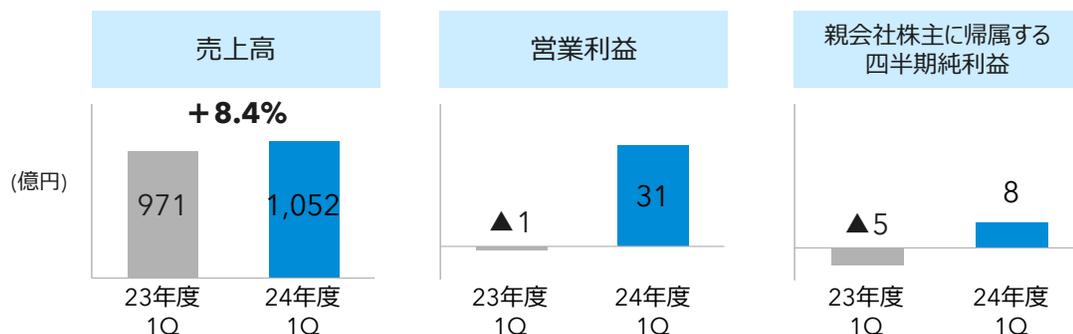
皆さま、おはようございます。斧でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。平素は弊社の活動に対しまして深いご理解、ご協力を賜り、ありがとうございます。この場を借りてお礼を申し上げます。それでは、2024年度第1四半期の決算について、概況を説明させていただきます。

決算のポイント

第1四半期 実績

液晶偏光子保護フィルム、LIBS*製造工程で使用されるVOC回収装置は堅調に推移し、増収。
営業利益は31億円、四半期純利益は8億円

*リチウムイオン電池セパレータ



2025年3月期 通期予想

包装用フィルム、電子材料の需要回復に加え、要改善事業の対策、製品価格の改定を進めることにより、営業利益170億円、当期純利益26億円の予想を据え置く

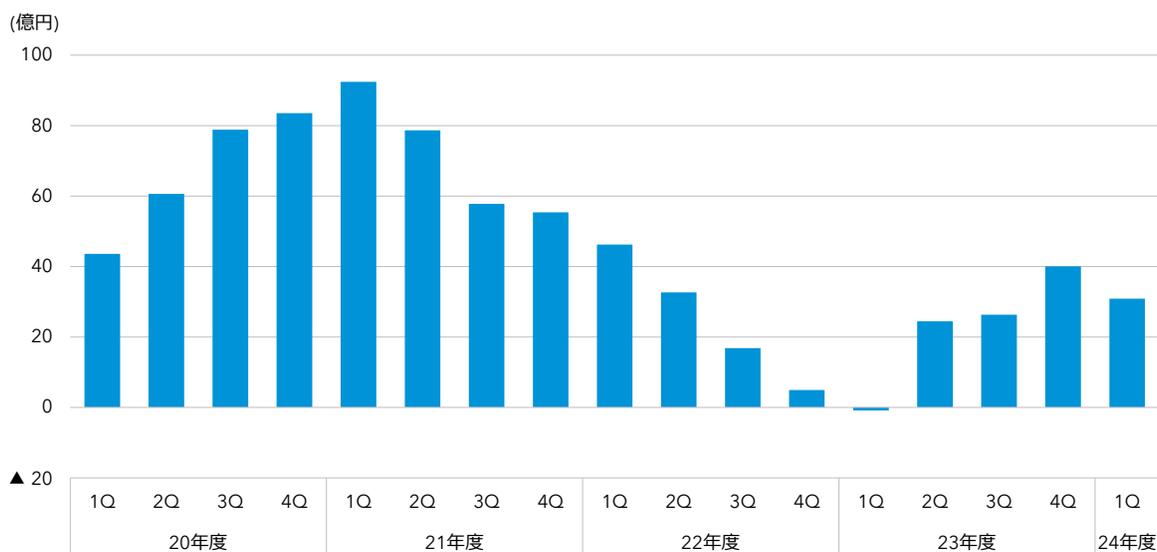
まず、決算のポイントです。第1四半期の実績は、売上高は1,052億円、前年同期に対し81億円、8.4%の増収となりました。営業利益は31億円、32億円の改善です。四半期純利益は8億円、13億円の改善となりました。

増収増益の決算となりましたが、要因につきましては、液晶偏光子保護フィルム“コスモシャインSRF”、LIBS製造工程で使用されるVOC回収装置が堅調に推移したことでございます。

この1Q実績を踏まえ、通期の積み上げをした結果、2025年3月期の通期予想は、包装用フィルム、電子材料の需要回復に加え、要改善事業の対策、製品価格の改定を進めることにより、営業利益170億円、当期純利益26億円の当初予想を据え置かせていただきます。

(参考) 四半期別営業利益推移

TOYOBO



3

四半期別の営業利益の推移です。ご覧のとおり23年度1Qを底にして、2Q、3Q、4Qと徐々に回復してきていることが見て取れます。

24年度1Qは、23年度4Qには若干届いておりませんが、緩やかではあるものの回復基調であると考えております。

決算サマリー | PL

TOYOBO

(億円)

| | 23年度 1Q | 24年度 1Q | 増減 | |
|--|------------|--------------|-----|--------|
| | | | 金額 | 率 |
| 売上高 | 971 | 1,052 | +81 | +8.4% |
| 売上総利益 | 191 | 231 | +40 | +21.1% |
| (率) | 19.6% | 22.0% | - | - |
| 営業利益 | ▲ 1 | 31 | +32 | - |
| (率) | - | 2.9% | - | - |
| 経常利益 | ▲ 3 | 20 | +23 | - |
| 特別損益 | ▲ 5 | 1 | +6 | - |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | ▲ 5 | 8 | +13 | - |
| EBITDA* <small>* 営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)</small> | 44 | 87 | +43 | +96.2% |
| EPS (円) | ▲ 5.8 | 8.9 | - | - |
| 減価償却費 | 45 | 56 | +11 | +24.1% |
| 設備投資 | 108 | 138 | +30 | +27.8% |
| 研究開発費 | 34 | 37 | +3 | +8.2% |

4

PLです。24年度1Qは、売上高1,052億円、営業利益31億円、経常利益20億円、四半期純利益8億円という結果でした。

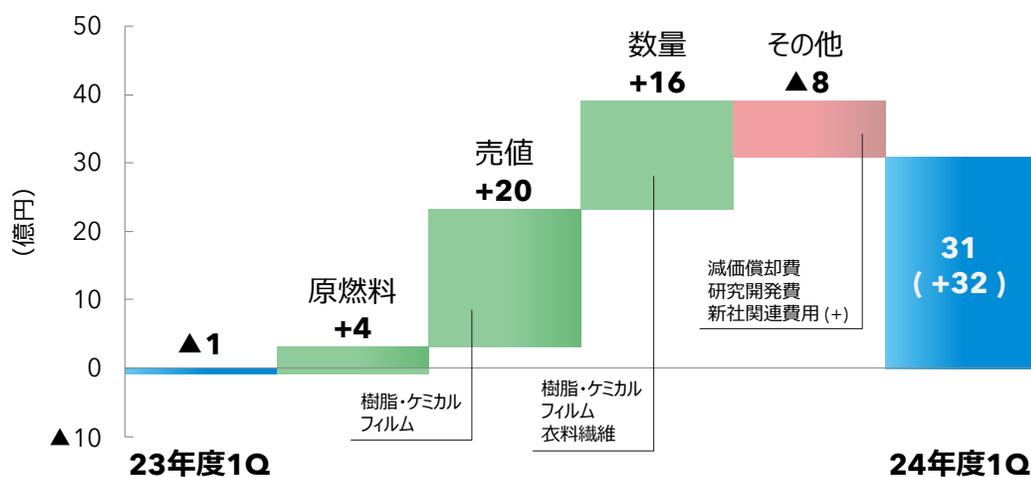
表の右側に増減額もしくは増減率を記載していますが、全項目においてプラスの数字になりました。注目いただきたいのは、売上総利益で、231億円、前年同期と比較しますと40億円、21.1%増となりました。

売上総利益率も、22.0%となり、前年同期に比較し2ポイント以上の改善となりました。製品価格の改定によるスプレッドの改善、不採算商材からの撤退、高付加価値製品への移行などを進めた効果が反映された結果と考えます。

また、営業利益が増加したこと、減価償却費が増えたことにより、EBITDAは87億円、43億円の増加となりました。

設備投資は138億円、前期同期比30億円の増加でした。

営業利益の増減要因



| | 22年度 | | 23年度 | | | | 24年度 |
|----------------|------|-----|------|-----|-----|-----|------|
| | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q |
| 為替レート (円/US\$) | 141 | 132 | 137 | 145 | 148 | 149 | 156 |
| 国産ナフサ (千円/kl) | 72 | 67 | 67 | 64 | 73 | 73 | 79 |

営業利益の増減要因分析です。

原燃料は4億円の益と見ております。24年度1Qの国産ナフサ価格はグラフ下の表に記載していますが、79,000円/klと、前年同期と比較し大幅な上昇になりました。ただ、この価格が製品の売上原価に反映されるまでには、一定のタイムラグがあると考えており、実質的に今期の売上原価に対応している価格は、半年程度遡った23年度下期のものと考えています。

そのため、23年度下期平均の価格73,000円/klと、22年度下期の平均69,500円/kl、これらを比較して影響額を分析しています。そうしますと、単価差は3,500円/klとなり、計算すると約4億円の差損ということになります。

一方で燃料につきましては、むしろ益方向にある状況でしたので、原料と燃料の合計では、約4億円の益になると分析しました。

売値につきましては、20億円の益と見ております。フィルムを中心に値上げ活動に取り組んでおり、23年度までの原燃料価格高騰分は、おおむね転嫁できたと考えています。ただ、足元では国産ナフサ価格の上昇が続いていることに加え、物流費をはじめとしたさまざまなコストが上昇傾向であることから、引き続き、価格の改定活動が必要と認識しています。なお、樹脂・ケミカル、エアバッグ用基布など、自動車用途の製品につきまして

も、価格改定を進めています。

数量は16億円の益と見ております。“コスモシャインSRF”は引き続き堅調に推移しています。また、樹脂・ケミカル、VOC回収装置、中東向けの特化生地なども、数量を伸ばしてきています。

その他は8億円の損と見ておりますが、新規に稼働する設備の減価償却費の増加、研究開発費の増加などを織り込みました。

決算サマリー | BS

TOYOBO

| | (B) | | (A) | (億円) |
|----------------------|-------|-------|--------------|-----------|
| | 23/3末 | 24/3末 | 24/6末 | 増減(A)-(B) |
| 総資産 | 5,889 | 6,070 | 6,115 | +46 |
| 現預金 | 607 | 338 | 318 | ▲ 20 |
| 棚卸資産 | 1,219 | 1,220 | 1,210 | ▲ 9 |
| 有形固定資産 | 2,402 | 2,815 | 2,904 | +90 |
| 純資産 | 2,214 | 2,301 | 2,308 | +7 |
| 自己資本 | 1,896 | 1,970 | 1,961 | ▲ 9 |
| うち利益剰余金 | 705 | 703 | 676 | ▲ 27 |
| 非支配株主持分 | 318 | 331 | 347 | +16 |
| 有利子負債 | 2,294 | 2,492 | 2,605 | +112 |
| D/E レシオ | 1.21 | 1.26 | 1.33 | - |
| Net Debt / EBITDA倍率* | 5.8 | 7.5 | 6.6 | - |

* (有利子負債 - 現預金) <期末> / EBITDA

6

BSです。総資産は6,115億円で、前期末比46億円の増加です。

主には有形固定資産が2,904億円となり、90億円増加しています。この固定資産の増分を賄うため、有利子負債が2,605億円と、前期末比で112億円増加しました。その結果、D/Eレシオは1.33倍となりました。

決算サマリー | セグメント別

TOYOBO

(億円)

| | 売上高 | | 営業利益 | | |
|----------|------------|--------------|------------|------------|------|
| | 23年度 1Q | 24年度 1Q | 23年度 1Q | 24年度 1Q | 増減 |
| フィルム | 390 | 421 | 12 | 15 | +3 |
| ライフサイエンス | 81 | 81 | 14 | 4 | ▲ 10 |
| 環境・機能材 | 250 | 281 | ▲ 7 | 13 | +19 |
| 機能繊維・商事 | 222 | 240 | ▲ 7 | 2 | +9 |
| 不動産・その他 | 28 | 29 | 4 | 5 | +1 |
| 消去・全社 | - | - | ▲ 17 | ▲ 7 | +9 |
| 合計 | 971 | 1,052 | ▲ 1 | 31 | +32 |

7

セグメント別の売上高、営業利益を記載しています。詳細は後ほどのページで説明させていただきますが、消去・全社をのぞく全セグメントで黒字になってございます。

| | 23年度 | 24年度 | 増減 (億円) | |
|------|------|------|---------|--------|
| | 1Q | 1Q | 金額 | 率 |
| 売上高 | 390 | 421 | +31 | +8.0% |
| 営業利益 | 12 | 15 | +3 | +21.2% |
| (率) | 3.2% | 3.6% | - | - |

包装用フィルム

- 流通在庫の調整が完了し、荷動きは緩やかに回復するも、コスト上昇の影響あり

工業用フィルム

- 液晶偏光子保護フィルムは、強い需要に牽引され堅調に推移
- セラミックコンデンサ用離型フィルムは、サプライチェーン全体の在庫調整は完了するも、本格的な需要回復に至らず

食品包装用OPPフィルム国内市場 出荷実績 (YOY増減率)



日本からのMLCC輸出実績 (YOY増減率)



それでは、セグメントごとの概況をご説明します。まず、フィルムです。前年同期比で売上高が+31億円、営業利益が+3億円という結果でした。

包装用フィルムは、22年度下期から続いていた流通在庫の調整が、ようやく23年度4Qに完了し、底を打って緩やかな回復基調にあります。

ご参考に、食品包装用OPPフィルムの国内出荷実績を記載しています。23年度1Qを底にして、徐々に回復してきていることが見て取れると思います。この流れに乗り、弊社の包装用フィルムも量を回復してきているということです。

また、価格改定につきましては、23年度までの原燃料の上昇分はおおむね転嫁できたと認識しています。ただし、物流費、固定費等の上昇に対応した価格改定については、この1Qで一部実現はしているものの、まだまだ不十分です。加えて、足元の国産ナフサ価格も上昇してきており、さらなる値上げ活動が必要と認識しています。

工業用フィルムは、“コスモシャインSRF”は強い需要に牽引され堅調に推移しています。テレビの販売台数は横ばいと聞いていますが、大型化が進んでいることから、面積ベースでは市場が拡大していると考えています。

また、セラミックコンデンサ用離型フィルムにつきましては、在庫調整が

完了しました。ハイエンド、ミドルエンドともに回復基調ではありますが、本格的な回復は24年度下期からと見ています。

こちらにも、日本からのMLCC輸出実績をご参考に記載しています。24年度1Qは若干下落していますが、全体的なトレンドとしては、22年度4Qを底に右肩上がりであると見ています。

| | 23年度 | 24年度 | 増減 | |
|------|-------|------|------|---------|
| | 1Q | 1Q | 金額 | 率 |
| 売上高 | 81 | 81 | ▲ 1 | ▲ 0.8% |
| 営業利益 | 14 | 4 | ▲ 10 | ▲ 72.2% |
| (率) | 16.6% | 4.6% | - | - |

(億円)

バイオ

- 診断薬用原料酵素は欧米向けを中心に堅調に推移するも、生産能力増強に伴う費用が増加

メディカル

- 人工腎臓用中空糸膜の需要は堅調に推移するも、一貫生産工場の立上げ費用が増加

医薬

- 米国FDAからの Warning Letter 解除（2023年7月）を受け、収益性改善

ライフサイエンスです。前年同期比で売上高は▲1億円、営業利益は▲10億円という結果でした。

減益要因の1つは、バイオ事業の診断薬用原料酵素の製造設備が敦賀事業所内で1Q中に立ち上がり、減価償却費が先行して発生したことです。人工腎臓用中空糸膜の一貫工場の立ち上げ費用も増加しました。加えて、23年度1Qには、まだ新型コロナウイルス感染症向けのPCR検査用試薬の特需が残っており、その反動もありました。

バイオ事業において診断薬用原料酵素は、欧米を中心に堅調に推移しました。新設備は24年度1Qに予定どおり稼働を開始しており、今後、業績に寄与してくると考えています。

人工腎臓用中空糸膜は順調に推移しています。現在建設中の一貫生産工場は、立ち上げの最終段階にあります。

医薬につきましては、米国のFDAからのWarning Letterの解除を受け、収益性改善へと移行中です。

| | 23年度 | 24年度 | 増減 | |
|------|------|------|-----|--------|
| | 1Q | 1Q | 金額 | 率 |
| 売上高 | 250 | 281 | +31 | +12.3% |
| 営業利益 | ▲7 | 13 | +19 | - |
| (率) | - | 4.5% | - | - |

(億円)

樹脂・ケミカル

- エンジニアリングプラスチックは、北米向け自動車用途の販売が拡大。ISO9001認証を再取得 (2024年5月)
- 水現像型感光性印刷版用途の光機能材料は、中国、欧州向けの販売が堅調

環境・ファイバー

- 環境ソリューションは、LIBS*製造工程で使用されるVOC回収装置の販売が増加 *リチウムイオン電池セパレータ
- 高機能ファイバーは、“ツヌーガ”が耐切創手袋用途において需要回復
- 不織布マテリアルは、自動車用途の需要が回復

環境・機能材は、前年同期比で売上高が+31億円、営業利益が+19億円という結果でした。

樹脂・ケミカルは、エンジニアリングプラスチックが北米への販売を中心に好調に推移し、光機能材料は、中国・欧州向けが堅調に推移しました。

環境・ファイバーの環境ソリューション装置は、中国と国内向けのLIBS工程での需要が堅調に推移しました。

また、高機能ファイバーは、“ツヌーガ”の耐切創手袋用途の需要が回復してきています。

不織布マテリアルは、自動車用途を中心に需要が回復してきています。

| | 23年度 | 24年度 | 増減 | |
|------|------|------|-----|-------|
| | 1Q | 1Q | 金額 | 率 |
| 売上高 | 222 | 240 | +19 | +8.5% |
| 営業利益 | ▲7 | 2 | +9 | - |
| (率) | - | 0.8% | - | - |

(億円)

衣料繊維

- 中東向け特化生地は、堅調な需要により販売が増加
- 国内生産拠点の集約などの事業構造改革により、収益性改善

エアバッグ用基布

- 製品価格の改定が進み、収益性改善

11

機能繊維・商事です。前年同期比で売上高が+19億円、営業利益が+9億円という結果でした。

衣料繊維は、中東向けの特化生地は堅調な需要により販売が増加しています。また、国内生産拠点の3工場から1工場への集約、不採算商材からの撤退等の構造改善を進め、収益性が改善しています。

エアバッグ用基布は、国内・海外ともに製品価格の改定が進み、収益性が改善しています。

以上がセグメントごとの状況でございます。

2024年度の事業環境見通し

TOYOBO

| セグメント | 事業 | 当初想定（2024年5月時点） | 見通し | |
|----------|----------|----------------------|------|------------------------|
| | | | 対想定* | 当初想定との差異 |
| フィルム | 包装用 | 在庫調整を終え、緩やかに回復へ | - | 在庫調整終え、緩やかに回復へ |
| | 工業用 | 液晶偏光子保護フィルムは前年度並みの需要 | - | 需要堅調 |
| | | MLCCは年度後半から需要回復 | - | 年度後半から需要回復 |
| ライフサイエンス | バイオ | 生化学診断薬用酵素は需要堅調 | - | 需要は堅調 |
| | メディカル | 人工腎臓用中空糸膜は堅調に推移 | - | 需要は堅調 |
| 環境・機能材 | 樹脂・ケミカル | 自動車生産は堅調に推移 | - | 海外中心に堅調に推移 |
| | | 電子材料用途の需要回復 | - | 需要回復 |
| | 環境・ファイバー | VOC回収装置の需要堅調 | - | 需要堅調 |
| | | 不織布マテリアルの厳しい競争環境は継続 | - | 厳しい競争環境は継続 |
| 機能繊維・商事 | エアバッグ | 自動車生産は堅調に推移 | - | 堅調に推移 |
| 共通 | | 国産ナフサは高止まり、石炭価格は落ち着く | ▲ | 国産ナフサ価格が上昇（製品価格の改定で対応） |

*当初想定に対し、○：改善・拡大、-：想定通り、▲：悪化・減少 12

24年度の事業環境の見通しです。5月の決算発表で公表しました事業環境の見通しから、フィルム、ライフサイエンス、環境・機能材、機能繊維・商事の各事業では大きな変化はございません。

ただし、国産ナフサ価格は上昇傾向が続いています。年初は国産ナフサ価格を70,000円/klと想定していましたが、現時点の足元予想は75,000円/klと上昇しました。今後、製品価格の改定で対応していきます。

2024年度 業績見通し

TOYOBO

包装用フィルム、電子材料の需要回復に加え、要改善事業の対策、製品価格の改定を進めることにより、営業利益 170 億円、当期純利益 26 億円の予想を据え置く

| | 23年度 | 24年度 | 増減 | | (億円) |
|-----------------|-------|--------------|-------|---------|-------|
| | 実績 | 見通し | 金額 | 率 | 直近予想 |
| 売上高 | 4,143 | 4,350 | +207 | +5.0% | 4,350 |
| 営業利益 | 90 | 170 | +80 | +89.0% | 170 |
| (率) | 2.2% | 3.9% | - | - | 3.9% |
| 経常利益 | 70 | 115 | +45 | +65.2% | 115 |
| 特別損益 | ▲ 14 | ▲ 36 | ▲ 22 | - | ▲ 38 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 25 | 26 | +1 | +5.9% | 26 |
| EBITDA | 288 | 405 | +117 | +40.6% | 405 |
| EPS (円) | 27.9 | 29.5 | - | - | 29.5 |
| 減価償却費 | 198 | 235 | +37 | +18.6% | 235 |
| 設備投資 | 616 | 500 | ▲ 116 | ▲ 18.8% | 500 |
| 研究開発費 | 153 | 160 | +7 | +4.5% | 160 |

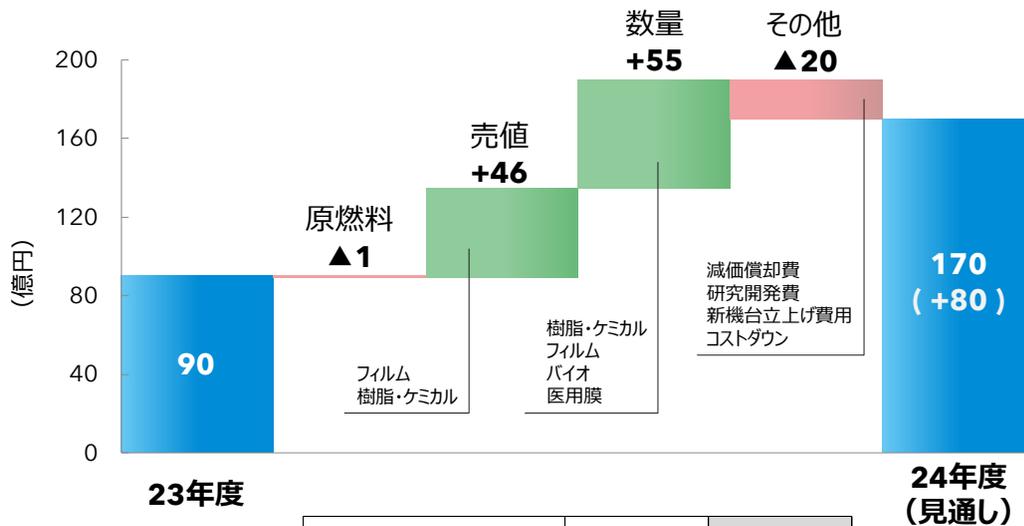
■設備投資 セラコン用離型フィルム新機台、バイオ工場リニューアル、重合設備更新

13

2024年度の業績見通しです。包装用フィルム、電子材料の需要回復に加え、要改善事業の対策、製品価格の改定を進めることにより、営業利益170億円、当期純利益26億円の予想を据え置きます。

営業利益の増減要因

TOYOBO



| | 23年度 | 24年度 |
|----------------|------|------|
| 為替レート (円/US\$) | 145 | 152 |
| 国産ナフサ (千円/kl) | 69 | 75 |

14

営業利益の増減要因分析は、内訳を若干変更しております。原燃料は、国産ナフサ価格が足元で上昇していることから、▲1億円と、損方向に見直しをしました。

国産ナフサ価格は、今年度75,000円/klで見通していますが、▲1億円の計算は、半年程度のタイムラグを踏まえて計算しています。

価格の上昇に対し、大半は売値で回収するというので、売値は+46億円に見直しをしました。また、数量は、包装用フィルム、MLCCの回復を織り込み、+55億円に見直しました。

その他は、当初想定どおり、減価償却費、研究開発費等々を織り込み、▲20億円と予想しています。

セグメント別見通し

TOYOBO

(億円)

| | 売上高 | | 営業利益 | | | 直近予想 (24/5) |
|----------|------------|--------------|------------|-------------|-----|----------------|
| | 23年度 実績 | 24年度 見通し | 23年度 実績 | 24年度 見通し | 増減 | |
| フィルム | 1,565 | 1,700 | 27 | 73 | +46 | 73 |
| ライフサイエンス | 346 | 380 | 44 | 37 | ▲7 | 37 |
| 環境・機能材 | 1,153 | 1,200 | 47 | 80 | +33 | 80 |
| 機能繊維・商事 | 957 | 950 | ▲10 | 0 | +10 | 0 |
| 不動産・その他 | 122 | 120 | 30 | 25 | ▲5 | 25 |
| 消去・全社 | - | - | ▲48 | ▲45 | +3 | ▲45 |
| 合計 | 4,143 | 4,350 | 90 | 170 | +80 | 170 |

15

セグメント別の見通しです。フィルム、ライフサイエンス、環境・機能材、機能繊維・商事、それぞれ年初の見通しを据え置かせていただきます。

以上、簡単ですが決算のご説明とさせていただきます。今年度は、何としても年初公表の170億円の営業利益は達成していきたい。それにより、社内外の信頼感を構築していきたいと考えています。引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。以上です。

補足

セグメント別情報

TOYOB0

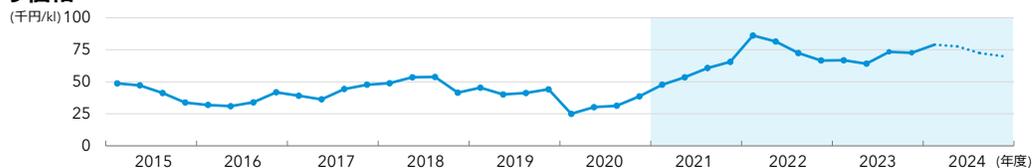
| 売上高 | 23 年度 | | | | | 24 年度 |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 通期 | 1Q |
| フィルム | 390 | 391 | 393 | 391 | 1,565 | 421 |
| ライフサイエンス | 81 | 84 | 87 | 93 | 346 | 81 |
| 環境・機能材 | 250 | 276 | 336 | 292 | 1,153 | 281 |
| 機能繊維・商事 | 222 | 235 | 232 | 268 | 957 | 240 |
| 不動産・その他 | 28 | 38 | 30 | 26 | 122 | 29 |
| 消去・全社 | - | - | - | - | - | - |
| 合計 | 971 | 1,024 | 1,079 | 1,069 | 4,143 | 1,052 |

| 営業利益 | 23 年度 | | | | | 24 年度 |
|----------|-------|-----|------|------|------|-------|
| | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 通期 | 1Q |
| フィルム | 12 | 2 | 1 | 12 | 27 | 15 |
| ライフサイエンス | 14 | 10 | 11 | 10 | 44 | 4 |
| 環境・機能材 | ▲ 7 | 10 | 26 | 17 | 47 | 13 |
| 機能繊維・商事 | ▲ 7 | ▲ 1 | ▲ 7 | 5 | ▲ 10 | 2 |
| 不動産・その他 | 4 | 10 | 7 | 9 | 30 | 5 |
| 消去・全社 | ▲ 17 | ▲ 7 | ▲ 12 | ▲ 12 | ▲ 48 | ▲ 7 |
| 合計 | ▲ 1 | 24 | 26 | 40 | 90 | 31 |

17

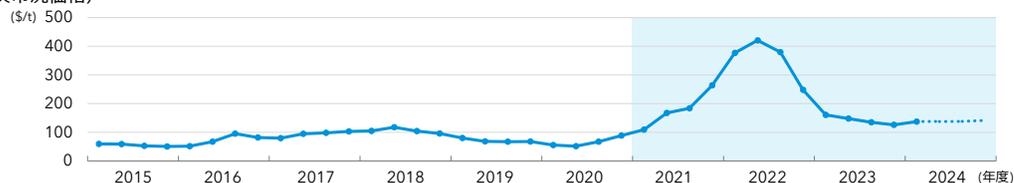
原燃料価格高騰に対する価格改定

■ 国産ナフサ価格



■ 石炭価格

(豪州一般炭市況価格)



■ 当社「原燃料」「売値」影響

(前年度比増減)

(億円)

| | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 |
|-------------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|------|------|
| 原燃料 (A) | +71 | +41 | ▲ 37 | ▲ 45 | +29 | +56 | ▲ 112 | ▲ 170 | ▲ 10 | ▲ 1 |
| 売値 (B) | ▲ 61 | ▲ 25 | +16 | +12 | ▲ 5 | ▲ 38 | +47 | +119 | +44 | +46 |
| スプレッド (A+B) | +10 | +16 | ▲ 21 | ▲ 33 | +24 | +18 | ▲ 65 | ▲ 51 | +34 | +45 |

GPIF が採用する 6 つの ESG 投資指数すべての構成銘柄に継続選定

- FTSE Blossom Japan Index
- FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
- MSCI 日本株 ESG セレクト・リーダーズ指数
- MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)
- S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数
- Morningstar 日本株式 ジェンダー・ダイバーシティ・ティルト指数 (除くREIT)

FTSE Blossom
JapanFTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

2024 CONSTITUENT MSCI日本株
ESGセレクト・リーダーズ指数

2024 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

高分子フィルム関連技術が「グローバルスコア 特許総合ランキング」1位を獲得 (株)パテント・リザルト調査

- 主要4か国・地域 (日本、米国、欧州、中国) の高分子フィルム特許の注目度を得点化。質と量の総合評価
- 評価された技術
 - ✓ ガスバリア性と耐熱性を持ち、低コストで高い加工性を実現可能なポリプロピレンフィルム
 - ✓ 強度と柔軟性を兼ね備え、有機化合物の吸着が少ない特性を持つポリエステル系シーラントフィルム など

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

All Rights Reserved

TOYOBO
Beyond Horizons

© TOYOBO CO., LTD. All rights reserved.